

平成31年度シラバス

授業科目名	人文科学概論 I		担当者名	有馬 伊津子	
配当学年	専門1年	単位数	2	年間授業時間	30時間以上
授業目標	人文科学諸分野の知識を深めるとともに、施術者として必要なコミュニケーション能力、及び、情報の適切な収集・処理に関する知識や技能を修得する。				
指導項目（大項目）				配時	実時数
(1) 人文科学諸分野の知識と技能 ア 日本語の特徴と機能 ウ 国文法と国語表現 エ 語彙 オ 言語生活 ケ 理療と日本語 など				12	
(2) コミュニケーションの知識と技能 ア コミュニケーションの基本 イ 接遇と待遇表現 ウ コミュニケーションと点字 オ 各種情報の収集・整理・活用・発信 など				10	
(3) 理療とコミュニケーション ア 施術者としての態度 イ 理療における接遇 ウ 医療面接理論 など				8	
合計				30	
試験及び成績評価	前期、後期の2回の定期試験の結果により、その素点の平均点をもって年間評価とする。				
教科書	なし 適時プリント等を配布。				
参考書	『医療面接』（医道の日本社）、『医療と社会』（盲学校…編纂委員会編）				

授業科目	社会科学概論 I	前期・後期	木曜日
単位数	2 単位	担当	村上初枝

### 授業テーマと目標

社会科学とは、法学・政治学・経済学・歴史学・社会学等の学問だといわれています。この授業では、社会保障制度を中心に生活をしていくうえでの課題や福祉を捉えて、現代社会をみていきましょう。教科書は使用しません。

### 授業内容と予定

- |                            |      |
|----------------------------|------|
| ①社会福祉の理念と意義（生活と福祉など）       | 3 回  |
| ②日本の社会福祉の歴史                | 4 回  |
| ③諸外国における社会福祉（イギリス・北欧・東アジア） | 4 回  |
| ④社会福祉六法、社会保険、生活扶助、公衆衛生     | 14 回 |
| ⑤これからの社会保障制度               | 2 回  |
| ⑥前期まとめ・後期まとめ               | 2 回  |
| ⑦前期・後期期末試験の返却              | 2 回  |

合計 32 時間(第 1 回含む)

### 評価方法

定期試験 2 回（前期期末試験・後期期末試験） 平均 60 点以上

授業科目名	自然科学概論		担当者名	小坂	
配当学年	専門 1 年	単位数	2	年間授業時間	30 時間以上
授業目標	<p>施術者として必要な自然科学諸分野の基礎的知識について教授し、物事を科学的に判断し、解決する能力と態度を修得させる。</p>				
授業内容	<p>《留意点》  他の科目との関連に留意し、問題解決的な学習を取り扱う。  また、3年次「臨床実習」での電子カルテに備えて、必要な PC 操作について教授する。</p> <p>《内容》</p> <p>(1) 自然科学の基礎 《3 時間》  ア 自然科学の発達  イ 自然科学の分類及び自然科学と医学  ウ 科学、技術と人間の生活と福祉  ※「自然科学の考え方」について他の分野との比較で考察し、更に「科学的方法」についての理解を深める。</p> <p>(2) 生命の連続と進化 《6 時間》  ア 細胞と生命の連続  イ 生殖と発生  ウ 遺伝と変異  エ 生物の進化  ※生物の物質的特徴および「生命現象」とは何かについて、理解を深める。</p> <p>(3) 物質の構成と変化 《4 時間》  ア 物質と元素  イ 物質の構成  ウ 物質間の量的関係  エ 物質の化学変化  ※物質の状態変化と化学変化についての理解を深める。</p> <p>(4) 自然と人間 《2 時間》  ア 生態系と人間  イ 人間活動と自然保護  ※環境破壊の問題点について理解を深める。</p> <p>(5) 力とエネルギー 《5 時間》  ア 物体の運動  イ 力と運動</p>				

授 業 内 容	<p>ウ 仕事と力学的エネルギー エ エネルギーの変換 ※人体の運動と消費エネルギーについての理解を深める。</p> <p>(6) 自然界の平衡 《3時間》 ア 地球の形状 イ 地殻の構造と働き ウ 地球の運動 エ 地球の熱収支 ※地球環境として捉えた恒常性についての理解を深める。</p> <p>(7) 自然の開発と保全 《3時間》 ア エネルギー資源の開発 イ 自然の保全 ※現代がかかえるエネルギー問題についての理解を深める。</p> <p>(8) 電子カルテに必要な PC の基本作 《4時間》 ※ファイラーの使い方をメインに実習する。</p>

授業科目名	保健体育 I		担当者名	細川	
配当学年	専門 1 年	単位数	1	年間授業時間	30 時間以上
授業目標	<p>施術者として必要な健康・安全や身体運動について教授し、健康の保持増進のための運動を実践させ、これを施術に応用する能力と態度を修得させる</p>				
授業内容	<p>(1) 体づくり運動  (2) 陸上競技  (3) 球技  (4) レクリエーションゲーム  (5) 体育理論  (6) 保健理論  (7) その他のスポーツ</p> <p>* 内容決定についての補足事項：内容については、上記内容を原則とするが、単位数、人数、年齢、性別、障害の程度、健康状態を配慮することに加え、施設や設備などの状況により決定する。</p>				
試験及び成績評価	<p>毎時間の観察記録法及び問答法を中心に実技技術やその上達度、実習態度、ルールなど授業内容の理解状況などを考慮して総合的に評価する。</p>				
教科書					

授業科目名	解剖学 I	担当者名	水沼
配当学年	専門 1年	単位数	4
		年間授業時間	120 時間以上
授業 目標	施術者として必要な人体諸器官の位置・形態・構造とについて学習し、これを施術に応用する能力と態度を修得する。		
授 業 内 容	(1) 解剖学の基礎 ア 解剖学の意義と分類 イ 人体の構成 ウ 解剖学的用語 エ 人体の方向と運動 (2) 運動器系 ①骨格系 ア 骨の一般 イ 頭 蓋 ウ 脊 柱 エ 胸 郭 オ 上肢の骨 カ 下肢の骨 キ 骨 盤 ク 骨の連結 ケ 人体各部の主要関節 コ 各関節の運動 (3) 運動器系 ②筋系 ア 筋の一般 イ 頭部の筋 ウ 頸 筋 エ 胸 筋 オ 腹 筋 カ 背 筋 キ 体幹の筋と運動 ク 上肢の筋 ケ 上肢の筋と運動 コ 下肢の筋 サ 下肢の筋と運動 (4) 基礎運動学 ア 運動の基礎 (てこと滑車) イ 体の重心と姿勢		

	<p>(5) 神経系</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 神経系の構成</li> <li>イ 中枢神経系</li> <li>ウ 末梢神経系</li> <li>エ 伝導路</li> </ul>
試験及び 成績評価	<p>年4回の総括的評価を実施する。学年末成績は、各期の評価の相加平均とする。成績は、小数点第1位で切り捨てた整数とする。</p>
教科書	<p>人体の構造と機能 解剖学</p>

授業科目名	解剖学Ⅱ		担当者名	山田忠	
配当学年	専門1年	単位数	3	年間授業時間	90時間以上
授業目標	<p>施術者として必要な人体諸器官の位置・形態・構造について学習し、これを施術に応用する能力と態度を修得する。</p>				
授業内容	<p>1. 循環器系  血管系（総論）  心臓  動脈系  静脈系  胎児循環  リンパ系  リンパ管  リンパ節  脾臓  胸腺  血液と血球</p> <p>2. 呼吸器系  鼻腔  副鼻腔  咽頭  喉頭  気管と気管支  肺</p> <p>3. 消化器系  口腔  咽頭  食道  胃  小腸  大腸  肝臓  胆嚢  膵臓</p>				

授 業 内 容	<p>4. 泌尿器系 腎臓 尿管 膀胱 尿道</p> <p>5. 生殖器系 男性生殖器 女性生殖器</p> <p>6. 内分泌系 下垂体 松果体 上皮小体 副腎 膵臓のランゲルハンス島</p> <p>7. 感覚器系 視覚器 平衡聴覚器 味覚器 嗅覚器 皮膚</p> <p>8. 国試過去問</p>
試験及び 成績評価	年4回の総括的評価を実施する。学年末成績は、各期の評価の相加平均とする。 成績は、小数点第1位で切り捨てた整数とする。
教科書等	人体の構造と機能 解剖学

平成31年度科目(教科)指導計画

授業科目名	生理学 I		担当者名	伊達 徳昭・森定 真	
配当学年	専門1年	単位数	2	年間授業時間	60時間
授業目標	施術者として必要な人体の機能について教授し、これを施術に応用する能力と態度を修得させる。				
				配時	実時数
(1) 生理学の基礎 ア 生理学の意義 イ 細胞 ウ 生体の物理化学的基礎 エ 生体反応の基礎				5	
(2) 循環と呼吸 ア 血液とリンパ イ 循環 ウ 呼吸				15	
(3) 消化と吸収 ア 消化 イ 吸収 ウ 肝臓の機能				13	
(4) 代謝と体温 ア 食品と栄養 イ 代謝 ウ 体温				12	
(5) 排泄 ア 腎臓 イ 膀胱と排尿				15	
合計				60	
試験及び成績評価	総括的評価は各学期末に実施し、中間期は形成的評価とする。 学年末成績は、各期のc総括的評価の相加平均とする。成績は、小数点第1位で切り捨てた整数とする。				
教科書	人体の構造と機能 生理学第3版 盲学校理療教科様図書編纂委員会編				
参考書	なし				

## 平成31年度科目(教科)指導計画

授業科目名	関係法規		担当者名	伊達 徳昭・原口 泰行	
配当学年	専門1年	単位数	1	年間授業時間	30時間
授業目標	施術者として必要な業務に関する法令について教授し、施術者として法令に則した規律のある業務を行う能力と態度を修得させる。				
				配時	実時数
(1) 按摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師に関する法律 ア. 免許 イ. 試験 ウ. 業務 エ. 罰則				20	
(2) 関係法規 ア. 医療関係法規 イ. 薬事関係法規 ウ. 衛生関係法規 エ. 社会福祉関係法規 オ. 社会保険関係法規				10	
合計				30	
試験及び成績評価	総括的評価は各学期末に実施し、中間期は形成的評価とする。学年末成績は、各期の総括的評価の相加平均とする。成績は、小数点第1位で切り捨てた整数とする。				
教科書	「医療と社会」田中千章 編著 岡山ライトハウス				
参考書	なし				

授業科目名	東洋医学概論 I		担当者名	小田 剛	
配当学年	専門 1 年	単位数	2	年間授業時間	60 時間以上
授業目標	あん摩マッサージ指圧師として必要な東洋医学の概念、診断法及び治療法等の基本的事項について教授し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得させる。				
授業内容	指導内容				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 東洋医学の基礎</li> <li>(2) 五臓六腑</li> <li>(3) 臓腑経絡論</li> <li>(4) 気血津液</li> <li>(5) 病因論</li> <li>(6) 病証論</li> <li>(7) 診断法</li> <li>(8) 治療法</li> </ul>				
授業内容	指導計画 * 『』内の数は予定時間数				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 東洋医学の基礎 『4』 <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 東洋医学の意義と沿革及び特色</li> <li>イ 陰陽五行論</li> </ul> </li> <li>(2) 五臓六腑 『3 1』 <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 肝の位置・形状・生理</li> <li>イ 心の位置・形状・生理</li> <li>ウ 脾の位置・形状・生理</li> <li>エ 肺の位置・形状・生理</li> <li>オ 腎の位置・形状・生理</li> <li>カ 心包の位置・形状・生理</li> <li>キ 胆の位置・形状・生理</li> <li>ク 小腸の位置・形状・生理</li> <li>ケ 胃の位置・形状・生理</li> <li>コ 大腸の位置・形状・生理</li> <li>サ 膀胱の位置・形状・生理</li> <li>シ 三焦の位置・形状・生理</li> <li>ス 奇恒の腑の名称</li> </ul> </li> <li>(3) 臓腑経絡論 『2』 <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 臓腑論</li> <li>イ 経絡の概要</li> </ul> </li> <li>(4) 気血津液 『6』 <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 気</li> <li>イ 血</li> </ul> </li> </ul>				

授 業 内 容	ウ 津 液
	(5) 病因論 『4』
	ア 内 因
	イ 外 因
	ウ 不内外因
	エ 三毒説
	(6) 病証論 『6』
	ア 八綱病証
	イ 臟腑病証
	ウ 十二経病証
(7) 診断法 『8』	
ア 四診の意義と概念	
イ 望診の概要	
ウ 聞診の概要	
エ 問診の概要	
オ 切診の概要	
カ 証の概要	
(8) 治療法 『2』	
ア 手技療法	
イ は り	
ウ きゅう	
エ 湯 液	
オ 養 生	
(9) 定期試験解説 『2』	
	計 65
	<b>【指導上の留意事項】</b>
	(1) 東洋医学は、西洋医学と体系を異にし、観念論に陥りやすいので、東洋医学の基本的な概念について理解させ、それぞれ具体的な事例を挙げて指導する。
	(2) 東洋医学の知識と実践の治療が結び付きやすいように実例を示しながらの説明を加える。
	(3) 他の科目との関連性に留意し、現代医学の病理や症候感との相違などの例を挙げて、理解させるように努める。
	(4) 授業形態として発問を多くすることにより知識の定着を図る。
試験及び 成績評価	前期(期末)、後期(期末)2回の定期試験の結果と形成的評価により、その素点の平均点をもって年間評価とする。
教科書等	基礎理療学Ⅰ 東洋医学概論

授業科目名	経絡経穴概論 I		担当者名	木村 秀伯	
配当学年	専門 1 年	単位数	3	年間授業時間	90 時間以上
授業目標	あん摩マッサージ指圧師として必要な経絡経穴の基本的事項について教授し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得させる。				
授業内容	<p>指導内容</p> <p>(1) 経絡経穴の概要</p> <p>(2) 主な経穴</p> <p>(3) 経絡経穴の現代医学的研究</p> <p>指導計画</p> <p>(1) 経絡経穴の概要</p> <p>ア 十二正経</p> <p>イ 奇経八脈</p> <p>ウ 要穴の概要</p> <p>エ 取穴法</p> <p>(2) 経穴</p> <p>ア 十四経の経穴名</p> <p>イ 十四経の主な経穴の部位</p> <p>(3) 経絡経穴の現代医学的研究</p> <p>ア 経絡経穴の研究</p> <p>指導上の留意事項</p> <p>(1) 取穴法では、経穴人形、解剖模型を活用するとともに生体観察をも取り入れる。</p> <p>(2) 他の科目との関連に留意する。</p>				
試験及び成績評価	前期(中間・期末)、後期(中間・期末)の 4 回の定期試験の結果により、その素点の平均点をもって年間評価とする。定期試験の内容は①経穴名の記憶 (10 点)、②取穴試験 (20 点)、③筆記試験 (70 点) とする。				
教科書等	経絡経穴概論 第 2 版 日本理療科教員連盟・社団法人 東洋療法学校協会 編 教科書執筆小委員会 著				

授業科目名	あん摩・マッサージ・指圧 基礎実習 I		担当者名	伊達 徳昭 ・ 藤井 徹	
配当学年	専門 1 年	単位数	4	年間授業時間	120 時間以上
授業目標	施術者として必要なあん摩施術に関する基礎的な知識と技能について教授し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得させる。				
授 業 内 容	<p>授業の形式 実習および一部講義</p> <p>指導内容 (1) 施術への導入 (2) あん摩の基礎 (3) 全身保健施術 (4) 治療院見学</p> <p>指導計画 (1) 施術への導入 4 時間 ア あん摩の意義と役割 イ 施術者としての心構え ウ 施術室の管理 エ 施術用具の取扱い オ 衛生管理（手指の消毒・身だしなみを含む） カ リスク管理 (2) あん摩の基礎 ア 基本手技 8 時間 イ 身体各部への施術 ①坐位のあん摩法 20 時間 ②側臥位のあん摩法 60 時間 ③腹臥位のあん摩法 8 時間 ④仰臥位のあん摩法 8 時間 (3) 全身保健施術 10 時間 (4) 治療院見学 2 時間</p> <p>指導上の留意事項 (1) 視覚障害の程度に応じた指導法を工夫する。 (2) あん摩施術について一連の流れを身につけさせる。 (3) 見学実習（施術所、病院、診療所、その他企業等）を計画し実施する。 (4) 他の科目との関連に留意する。</p>				
	試験及び 成績評価	前期期末・後期期末に総括的評価を実施し、その素点の平均点をもって年間評価とする。 なお、各期の中間期には形成的評価を実施する。 成績は、小数点第 1 位で切り捨てた整数とする。			
教科書等	参考図書 あん摩マッサージ指圧実技（基礎編）				

授業科目名	あん摩マッサージ指圧 基礎実習Ⅱ		担当者名	土志田 武・藤井 徹	
配当学年	専門 1 年	単位数	2	年間授業時間	60 時間以上
授業目標	施術者として必要なあん摩施術に関する基礎的な知識と技能について教授し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得させる。				
授 業 内 容	<p>(1) 施術への導入 2 時間</p> <p>ア マッサージの意義と役割</p> <p>イ 施術者としての心構え</p> <p>ウ 施術室の管理</p> <p>エ 施術用具の取扱い</p> <p>オ 衛生管理（手指の消毒および身だしなみを含む）</p> <p>カ リスク管理</p> <p>(2) マッサージの基礎</p> <p>ア 基本手技 4 時間</p> <p>イ 身体各部への施術</p> <p>前腕のマッサージ 6 時間</p> <p>上腕のマッサージ 4 時間</p> <p>下腿のマッサージ 4 時間</p> <p>大腿のマッサージ 4 時間</p> <p>関節のマッサージ 4 時間</p> <p>背部のマッサージ 6 時間</p> <p>腹部のマッサージ 4 時間</p> <p>顔面および頸部のマッサージ 6 時間</p> <p>(3) 全身保健施術 4 時間</p> <p>イ マッサージによる全身施術</p> <p>(4) の他の手技療法</p> <p>オイルマッサージ 2 時間</p> <p>結合式マッサージ 2 時間</p> <p>リンパマッサージ 2 時間</p> <p>その他の手技療法 4 時間</p> <p>指導上の留意事項</p> <p>(1) 視覚障害の程度に応じた指導法を工夫する。</p> <p>(2) マッサージ施術について一連の流れを身につけさせる。</p> <p>(3) 他の科目との関連に留意する。</p>				
試験及び 成績評価	前期および後期の学期末に総括的評価を実施し、中間期には形成的評価を実施する。 各評価は、試験に実習態度等を加味したものとする。 学年成績は、各期の総括的評価の相加平均とする。				
教科書等	参考図書 あん摩マッサージ指圧実技（基礎編）				

授業科目名	はき基礎実習 I		担当者名	原口泰行	
配当学年	専門 1 年	単位数	3	年間授業時間	90 時間以上
授業目標	<p>施術者として必要な施術に関する知識と技能について学習し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得する。</p>				
授業内容	<p>1. 施術への導入</p> <p>(ア) 鍼施術の意義と役割</p> <p>(イ) 施術者としての心構え</p> <p>(ウ) 施術室の管理</p> <p>(エ) 施術用具の基礎知識とその取扱い</p> <p>(オ) 衛生管理 (手指の消毒を含む)</p> <p>(カ) リスク管理 (感染予防対策を含む)</p> <p>2. 施鍼の基礎</p> <p>(ア) 消毒法の実際</p> <p>(イ) 前揉捏と後揉捏<sup>36</sup></p> <p>(ウ) 押手と刺し手</p> <p>(エ) 管鍼法と撚鍼法</p> <p>(オ) 刺入法と抜針法</p> <p>3. 基本手技</p> <p>4. 身体各部への刺鍼</p> <p>5. 主な経穴への刺鍼</p> <p>計 90 時間</p>				
試験及び成績評価	<p>総括的評価は各学期末のみ実施し、中間期は形成的評価を実施する。</p> <p>学年末成績は、各期の評価の相加平均とする。</p> <p>成績は、小数点第 1 位で切り捨てた整数とする。</p>				
教科書	鍼灸実技 基礎と臨床 オリエンズ研究会				

授業科目名	はき基礎実習Ⅱ(灸)		担当者名	水沼	
配当学年	専門 1 年	単位数	2	年間授業時間	60 時間以上
授業目標	施術者として必要な施術に関する知識と技能について学習し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得する。				
授業内容	<p>1) 艾</p> <p>(1) 艾の種類 A 散り艾 B 切り艾</p> <p>(2) 艾の品質と鑑別</p> <p>(3) 艾の保存</p> <p>(4) 線香</p> <p>2) 施灸の種類</p> <p>(1) 有痕灸各種 (2) 無痕灸各種</p> <p>3) 施灸の実際</p> <p>(A) 有痕灸</p> <p>① 透熱灸</p> <p>A 手順 B 灸点のおろし方 C 艾しゆの形と大きさ</p> <p>D 艾しゆのひねり方 E 線香の取り扱いと点火</p> <p>F 燃焼後の灰処理</p> <p>② 施灸の工夫</p> <p>③ 施灸の練習</p> <p>(B) 無痕灸</p> <p>① 知熱灸 ② 各種温灸 ③ 各種隔物灸</p> <p>4) 身体各部の施灸</p> <p>(1) 灸の大きさ、壮数について (2) 特殊部位の施灸</p> <p>①身体斜面の施灸 ②頭皮部の施灸 ③顔面部の施灸 ④腹部の施灸</p> <p>⑤鶏眼、尋常性疣贅、胼胝等への施灸</p> <p>※視覚障害者に出来る灸実技はどうあるべきかを念頭におき、可能なものを想意・工夫するよう留意する</p>				
試験及び成績評価	定期試験時における実技試験（年2回）により、技術の上達度などを考慮して総合的に評価する。				
教科書	参考 鍼灸実技 (オリエンス研究会)				

平成31年度 教科指導計画(シラバス)

授業科目名	あん摩マッサージ指圧基礎Ⅲ(指圧)				
担当者名	今井 進 上野 博之				
配当学年	専門1年	単位数	2	年間授業時間	60時間以上
授業目標	施術者として必要な施術に関する知識と技能について学習し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を養う。				
授業内容				配当時間	実施時間
1. 施術への導入 ①指圧の意義と役割 ②施術者としての心構え ③施術室の管理 ④施術用具の取扱い ⑤衛生管理(手指の消毒を含む) ⑥リスク管理				10	
2. 指圧の基本手技 ①押圧操作法 ②運動操作法				20	
3. 指圧施術上の基本的事項				10	
4. 腹臥位の指圧 ①背部 ②殿部 ③大腿 ④下腿 ⑤足部 ⑥後頭部・後頸部・肩上部				20	
数間時				60	
試験及び成績評価	総括的評価は各学期末に実施し、中間期は形成的評価を実施する。学年末成績は、各期の評価の相加平均とする。				
教科書 参考図書	あん摩マッサージ指圧実技(基礎編)				

平成31年度シラバス

授業科目名	人文科学概論Ⅱ		担当者名	有馬 伊津子	
配当学年	専門2年	単位数	2	年間授業時間	30時間以上
授業目標	人文科学諸分野の知識を深めるとともに、施術者として必要なコミュニケーション能力、及び、情報の適切な収集・処理に関する知識や技能を修得する。				
指導項目（大項目）				配時	実時数
(1) 人文科学諸分野の知識と技能 ア 日本語の特徴と機能 ウ 国文法と国語表現 エ 語彙 オ 言語生活 カ 日本文学と文学史 キ 古文と漢文 ケ 理療と日本語 など				12	
(2) コミュニケーションの知識と技能 ア コミュニケーションの基本 イ 接遇と待遇表現 オ 各種情報の収集・整理・活用・発信 など				8	
(3) 理療とコミュニケーション ア 施術者としての態度 イ 理療における接遇 ウ 医療面接理論 など				10	
合計				30	
試験及び成績評価	前期、後期の2回の定期試験の結果により、その素点の平均点をもって年間評価とする。				
教科書	なし 適時プリント等を配布。				
参考書	『医療面接』（医道の日本社）、『医療と社会』（盲学校…編纂委員会編）				

授業科目	社会科学概論Ⅱ	前期・後期	木曜日
単位数	2単位	担当	村上

### 授業テーマと目標

現代は情報社会です。膨大な情報の中から、正確に知りたいことを把握することは大変かもしれません。そして、社会の捉え方は多様で複雑です。

現在の社会情勢(政治・経済・地理・歴史)をみながら、どんな問題点や課題があるのかを考えていきましょう。教科書は使用しません。

### 授業内容と予定

- |                           |           |
|---------------------------|-----------|
| ①日本の近現代史とふたつの憲法（開国から現在まで） | 15回       |
| ②現代社会の課題                  | 7回        |
| ・世界と日本の選挙制度               | ・地震と火山    |
| ・世界の食料事情                  | ・労働に関する法律 |
| ・地球温暖化                    | ・その他      |
| ③社会保障制度(障害者福祉・様々な社会的支援制度) | 5回        |
| ④前期・後期まとめ、返却(試験)          | 4回        |

合計 32 回(第 1 回含む)

### 評価方法

定期試験 2回(前期期末試験・後期期末試験) 平均 60 点以上

授業科目名	自然科学概論Ⅱ		担当者名	小坂	
配当学年	専門2年	単位数	2	年間授業時間	30時間以上
授業目標	1 推測統計学におけるデータ処理をとおして、科学的推論・検証の考え方・方法論を修得する 2 PCでの「電子カルテ」処理の理論と実践を修得する				
授業内容	学習内容 1 「データ」の読み方、「データ」と「情報」の関連について データの「質」、「量」、「尺度」 2 「相関関係」と「因果関係」 3 危険因子の比較 「リスク比」と「オッズ比」 4 交絡要因と有意性 5 単純集計の検定 「適合度」の検定 6 クロス集計の検定 「独立性」の検定 7 データベースの理論的基礎 8 データベースの応用 9 電子カルテソフトの構造的特徴 10 電子カルテの実践				

授業科目名	保健体育Ⅱ		担当者名	細川	
配当学年	専門2年	単位数	1	年間授業時間	30時間以上
授業目標	<p>施術者として必要な健康・安全や身体運動について教授し、健康の保持増進のための運動を実践させ、これを施術に応用する能力と態度を修得させる</p>				
授業内容	<p>(1) 体づくり運動  (2) 陸上競技  (3) 球技  (4) レクリエーションゲーム  (5) 体育理論  (6) 保健理論  (7) その他のスポーツ</p> <p>*内容決定についての補足事項：内容については、上記内容を原則とするが、単位数、人数、年齢、性別、障害の程度、健康状態を配慮することに加え、施設や設備などの状況により決定する。</p>				
試験及び成績評価	<p>毎時間の観察記録法及び問答法を中心に実技技術やその上達度、実習態度、ルールなど授業内容の理解状況などを考慮して総合的に評価する。</p>				
教科書					

授業科目名	生理学Ⅱ		担当者名	土志田	
配当学年	専門 2 年	単位数	3	年間授業時間	90 時間以上
授業目標	<p>施術者として必要な人体の機能について教授し、これを施術に応用する能力と態度を修得させる。</p>				
授業内容	<p>授業内容・予定時間数</p> <p>( 6 ) 内分泌～ 1 8 時間</p> <p>( 7 ) 生殖と成長～ 5 時間</p> <p>( 8 ) 神経</p> <p>ア 神経の一般～ 4 時間</p> <p>イ 中枢神経～ 6 時間</p> <p>ウ 末梢神経～ 5 時間</p> <p>エ 自律神経～ 5 時間</p> <p>( 9 ) 筋～ 1 6 時間</p> <p>(10) 身体の運動～ 8 時間</p> <p>(11) 感覚</p> <p>ア 感覚の一般～ 3 時間</p> <p>イ 体性感覚～ 6 時間</p> <p>ウ 内臓感覚～ 2 時間</p> <p>エ 特殊感覚～ 6 時間</p> <p>(12) 生体の防御機構</p> <p>ア 身体活動の協調～ 2 時間</p> <p>イ 疾病に対する防御～ 4 時間</p> <p>計 90</p> <p>指導上の留意事項</p> <p>(1) 構造と機能との関連、病態生理に関する内容をも含め指導する。</p> <p>(2) 他の科目との関連に留意する。</p>				
試験及び成績評価	<p>前期(中間・期末)、後期(中間・期末)の 4 回の定期試験を行い、前期成績と後期成績の平均を持って年間評価とする。(なお、平均を行う際には、小数点以下は切り捨てとする。)</p>				
教科書等	<p>人体の構造と機能 生理学</p>				

授業科目名	疾病の成り立ちと予防□ 病理学概論		担当者名	原口泰行 水沼健生	
配当学年	専門 2 年	単位数	2	年間授業時間	60 時間
授業目標	<p>施術者として必要な疾病の本態や各病変の概要について教授し、これを          施術に応用する能力と態度を修得させる。</p>				
授業内容	<p>(1) 病理学の基礎 → 1 時間          (2) 病因 → 10 時間              内因 素因・体質—2 時間              外因 栄養素—2 時間                  物理的原因—2 時間                  化学的原因—2 時間                  生物学的原因—2 時間          (3) 循環障害 → 4 時間          (4) 退行性病変 → 6 時間          (5) 進行性病変 → 8 時間              進行性病変—2 時間              異物の処理—2 時間              移植—2 時間              創傷の治癒—2 時間          (6) 炎症 → 14 時間              概念—2 時間              原因・経過と転帰—6 時間              炎症の病変—6 時間          (7) 腫瘍 → 12 時間              形態—2 時間              構造—2 時間              発育と転移—3 時間              腫瘍の診断—2 時間              腫瘍の分類—3 時間          (8) 免疫異常とアレルギー → 5 時間              免疫異常—3 時間              アレルギー—2 時間</p>				
試験及び 成績評価	<p>成績評価は、前期期末試験と後期期末試験の計 2 回の総括的評価の平均点をもつて年間評価とする。なお、前期中間評価期間と後期中間評価期間には、それぞれの到達度を確保するため、形成的評価を行う。</p>				
教科書	疾病の成り立ちと予防 II 病理学概論				

授業科目名	臨床医学総論		担当者名	原口 泰行	
配当学年	専門2年	単位数	3	年間授業時間	90時間以上
授業目標	<p>施術者として必要な現代医学の診断及び治療に関する基礎的知識について教授し、これを施術に応用する能力と態度を習得させる。</p>				
指導項目（大項目）				配時	実時数
<p>(1) 診察の概要</p> <p>ア 診察の意義 イ 診察の一般的心得</p> <p>ウ 関連用語の理解 エ 診察方の種類</p> <p>オ 診察の順序 カ 記録の目的と内容</p> <p>(2) 診察の方法</p> <p>ア 問診（医療面接） イ 視診 ウ 打診</p> <p>エ 聴診 オ 触診 カ 測定法 キ 神経系の検査</p> <p>(3) 臨床検査法</p> <p>ア 一般検査 イ 生化学検査</p> <p>ウ 生理学的検査及び画像診断の概要</p> <p>(4) 治療学</p> <p>ア 治療の意義と分類 イ 薬物療法</p> <p>ウ 食事療法 エ 理学療法 オ その他の療法</p> <p>(5) 臨床心理</p> <p>ア 患者の心理 イ 心理学的検査・評価方法</p> <p>ウ カウンセリング エ その他</p>				1	
				59	
				20	
				5	
				5	
合計				90	
試験及び成績評価	<p>試験は前期（中間・期末）、後期（中間・期末）の4回を実施する。成績評価は、上記の試験〈総括的評価〉の学期の平均点を算出し、前期と後期の平均点をもって学年の評価とする。なお、平均を行った場合の小数点以下は切り捨てとする。</p>				
教科書	生活と疾病Ⅲ（臨床医学総論） 盲学校理療教科用図書編纂委員会編				
参考書	臨床医学総論 東洋療法学校協会編				

平成31年度科目(教科)指導計画

授業科目名	理療臨床医学各論		担当者名	今井 進	
配当学年	専門2年	単位数	3	年間授業時間	90時間以上
授業目標	施術者として必要な現代医学的の立場からみた系統別疾患の病態生理および診断、治療に関する基礎的知識について学習し、 施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得する。				
指導項目(大項目)				配時	実時数
1	運動器疾患の病態生理および診断、治療			20	
	ア 関節疾患				
	イ 骨代謝性疾患				
	ウ 骨疾患				
	エ 筋疾患				
	オ 形態異常				
	カ 脊椎疾患				
	キ 整形外科領域の外傷				
2	神経系疾患の病態生理および診断、治療			20	
	ア 脳血管疾患				
	イ 脳・脊髄感染症				
	ウ 脳・脊髄腫瘍				
	エ 大脳変性疾患				
	オ その他の変性疾患				
	カ 末梢神経疾患				
3	その他各科の疾患の病態生理及び診断、治療			10	
	ア 麻酔科				
	イ ペインクリニック				
	ウ 一般外科				
4	消化器疾患の病態生理および診断、治療			20	
	ア 食道疾患				
	イ 胃・十二指腸疾患				
	ウ 腸疾患				
	エ 腹膜疾患				
	オ 肝・胆道疾患				
	カ 膵臓疾患				
5	呼吸器疾患			15	
7	まとめ 復習			5	
合計				90	
試験及び成績評価	前期(中間・期末)、後期(中間・期末)の4回の総括的評価を行う。前期・後期の成績の結果により、その素点の平均点をもって年間評価とする。				
教科書	生活と疾病Ⅲ(臨床医学各論) 上・下巻 盲学校理療教科用図書編纂委員会編				
参考書	臨床医学各論 東洋療法学校協会編				

授業科目名	東洋医学概論Ⅱ		担当者名	藤井 徹	
配当学年	専門2年	単位数	3	年間授業時間	90時間以上
授業目標	はり師、きゅう師として必要な東洋医学の概念、診断法及び治療法等の基本的事項について教授し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得させる。				
授業内容	<p>授業の形式 講義および一部実習</p> <p>指導内容  (1) 東洋医学の基礎  (2) 五臓六腑  (3) 臓腑経絡論  (4) 気血津液  (5) 病因論  (6) 病証論  (7) 診断法  (8) 治療法</p>				
	<p>指導計画</p> <p>(1) 東洋医学の基礎 8時間  ア 東洋医学の意義と沿革及び特色  イ 陰陽五行論</p> <p>(2) 五臓六腑 20時間  ア 肝の位置・形状・生理  イ 心の位置・形状・生理  ウ 脾の位置・形状・生理  エ 肺の位置・形状・生理  オ 腎の位置・形状・生理  カ 心包の位置・形状・生理  キ 胆の位置・形状・生理  ク 小腸の位置・形状・生理  ケ 胃の位置・形状・生理  コ 大腸の位置・形状・生理  サ 膀胱の位置・形状・生理  シ 三焦の位置・形状・生理  ス 奇恒の腑の名称</p>				

(3) 臓腑経絡論 2時間

ア 臓腑論

イ 経絡論

指導上の留意事項

- (1) 構造と機能との関連、病態生理に関する内容をも含め指導する。
- (2) 他の科目との関連に留意する。

試験及び  
成績評価

前期(中間・期末)、後期(中間・期末)の4回の定期試験を行い、前期成績と後期成績の平均を持って年間評価とする。(なお、平均を行う際には、小数点以下は切り捨てとする。)

教科書等

人体の構造と機能 生理学

授業科目名	経絡経穴概論Ⅱ		担当者名	木村 秀伯	
配当学年	専門 2 年	単位数	2	年間授業時間	60 時間以上
授業目標	はり師、きゅう師として必要な経絡経穴の基本的事項について教授し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得させる。				
授業内容	<p>指導内容</p> <p>(1) 経絡経穴の概要</p> <p>(2) 経穴</p> <p>(3) 経穴の応用</p> <p>(4) 経絡経穴の現代医学的研究</p> <p>指導計画</p> <p>(1) 経絡経穴の概要</p> <p>ア 十二正経</p> <p>イ 奇経八脈</p> <p>ウ 要穴の概要</p> <p>エ 取穴法</p> <p>(2) 経穴</p> <p>ア 任脈・督脈の経穴名と部位</p> <p>イ 十二正経の経穴名と部位</p> <p>(3) 経穴の応用</p> <p>ア 要穴の応用</p> <p>イ 組み合わせ穴</p> <p>ウ 奇穴</p> <p>(4) 経絡経穴の現代医学的研究</p> <p>ア 経絡の研究</p> <p>イ 経穴の研究</p> <p>(5) 復習と練習問題</p> <p>指導上の留意事項</p> <p>(1) 取穴法では、経穴人形、解剖模型を活用するとともに生体観察をも取り入れる。</p> <p>(2) 他の科目との関連に留意する。</p>				
試験及び成績評価	前期期末、後期期末の 2 回の定期試験の結果により、その素点の平均点をもって年間評価とする。定期試験の内容は①経穴名の記憶 (10 点)、②取穴試験 (20 点)、③筆記試験 (70 点) とする。なお、成績に関与しないが前期中間・後期中間期には利用者全体及び個々の学習状況を把握する目的で形成的評価を行なう。				
教科書等	経絡経穴概論 第 2 版 日本理療科教員連盟・社団法人 東洋療法学校協会 編 教科書執筆小委員会 著				

授業科目名	あん摩マッサージ指圧 応用実習 I		担当者名	木村 秀伯・土志田 武	
配当学年	専門 2 年	単位数	4	年間授業時間	120 時間以上
授業 目標	<p>施術者として必要な応用的施術に関する知識と技能について教授し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得させる。また、臨床実習前に施術実技試験等を行い、技術等に関する評価を行う。</p>				
授 業 内 容	<p>指導計画</p> <p>(1) 分野別の治療法</p> <p>ア 健康医学分野 30 時間</p> <p>イ 産業医学分野 20 時間</p> <p>ウ スポーツ医学分野 10 時間</p> <p>エ 老年医学分野 10 時間</p> <p>(2) 臨床入門</p> <p>ア リスク管理 適宜実施</p> <p>イ 衛生管理 適宜実施</p> <p>ウ 患者への対応 4 時間</p> <p>エ 診察の進め方 4 時間</p> <p>オ 適否の判定 2 時間</p> <p>(3) 臨床実習前試験等～ 10 時間</p> <p>ア 環境整備（設備・器具等の準備及び片付け）</p> <p>イ 医療面接</p> <p>ウ 身だしなみ、医療接遇・マナー</p> <p>エ 身体診察と施術計画</p> <p>オ 患者への説明と同意</p> <p>カ 施術の実践</p> <p>キ 安全な施術操作とリスク管理</p> <p>ク 施術結果の把握</p> <p>ケ 施術後の対応（患者への説明・配慮）</p> <p>コ 施術中の器具の整理整頓と施術環境への配慮</p> <p>サ 臨床前評価試験</p> <p>(4) 日常遭遇しやすい主な症候・疾患に対する診察と施術</p> <p>ア 運動器系（肩こり、頸肩腕痛、腰下肢痛、肩・膝の関節痛） 12 時間</p> <p>イ 呼吸器・循環器系（咳嗽、高血圧症） 6 時間</p> <p>ウ 消化器系（胃炎、便秘・下痢） 6 時間</p> <p>エ 婦人科系（月経異常、更年期障害） 4 時間</p> <p>オ その他 2 時間</p>				

授 業 内 容	<p>指導上の留意事項</p> <p>(1) 視覚障害の程度に応じた指導法を工夫する。</p> <p>(2) 進路の希望を配慮して指導にあたる。</p> <p>(3) 指導計画 (4) の臨床実習前試験等については、臨床実習に向けた一連の流れを身につけさせる。</p> <p>(4) 利用者の希望に応じて見学実習（施術所、病院、診療所、その他企業等）を計画し実施する。</p> <p>(5) 他の科目との関連に留意する。</p>
試験及び 成績評価	<p>前期および後期の学期末に総括的評価を実施し、中間期には形成的評価を実施する。</p> <p>各評価は、試験に実習態度等を加味したものとする。</p> <p>学年成績は、各期の総括的評価の相加平均とする。</p>
教科書等	あん摩マッサージ指圧実技（基礎編）

授業科目名	鍼応用実習 I			担当者名	小田 剛・上野 博之
配当学年	専門 2 年	単位数	4	年間授業時間	120 時間以上
授業目標	<p>施術者として必要な応用的施術に関する知識と技能について教授し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得させる。</p> <p>また、臨床実習前に施術実技試験等を行い、技術等に関する評価を行う。</p>				
授業内容	<p>指導計画</p> <p>&lt;予定時間&gt;</p> <p>(1) 分野別の治療法 <span style="float: right;">適宜</span></p> <p>ア 健康医学分野</p> <p>イ 産業医学分野</p> <p>ウ スポーツ医学分野</p> <p>エ 老年医学分野</p> <p>(2) 臨床入門 <span style="float: right;">適宜</span></p> <p>ア リスク管理</p> <p>イ 衛生管理</p> <p>ウ 患者への対応</p> <p>エ 診察の進め方</p> <p>オ 適否の判定</p> <p>(3) 日常遭遇しやすい主な症候・疾患に対する診察と施術 <span style="float: right;">50h</span></p> <p>ア 運動器系（肩こり、頸肩腕痛、腰下肢痛、肩・膝の関節痛）</p> <p>イ 呼吸器・循環器系（咳嗽、高血圧症）</p> <p>ウ 消化器系（胃炎、便秘・下痢）</p> <p>エ 婦人科系（月経異常、更年期障害）</p> <p>オ その他</p> <p>(4) 鍼施術 <span style="float: right;">10h</span></p> <p>ア 特殊鍼法</p> <p>（ア）小児鍼法</p> <p>（イ）皮内鍼法</p> <p>（ウ）灸頭鍼法</p> <p>（エ）刺絡鍼法</p> <p>（オ）鍼通電療法</p> <p>（カ）その他の特殊鍼法</p>				

授 業 内 容	(5) 臨床実習前試験等	10h
	ア 環境整備（設備・器具等の準備及び片付け）	
	イ 医療面接	
	ウ 身だしなみ、医療接遇・マナー	
	エ 身体診察と施術計画	
	オ 配穴及び取穴法	
	カ 患者への説明と同意	
	キ 施術の実践	
	ク 安全な施術操作とリスク管理	
	ケ 施術結果の把握	
コ 施術後の対応（患者への説明・配慮）		
サ 施術中の器具の整理整頓と施術環境への配慮		
	合計	120h
	指導上の留意事項	
	(1) 視覚障害の程度に応じた指導法を工夫する。	
	(2) 進路の希望を配慮して指導にあたる。	
	(3) 指導計画（7）の臨床実習前試験等については、臨床実習に向けた一連の流れを身につけさせる。	
	(4) 見学実習（施術所、病院、診療所、その他企業等）については進路の係で実施する。	
	(5) 他の科目との関連に留意する。	
	(6) 教科指導計画書の作成に当たっては、指導計画（7）「臨床実習前試験等」に関する指導内容について、各応用実習の総単位数のうち1単位相当分を設定する。	
試験及び 成績評価	前期(期末)、後期(期末)の2回の試験を実施し、総括的評価とする。 また、前期（中間）、後期（中間）の2回の形成的評価を実施する。	
教科書等	鍼灸実技 基礎と臨床 オリエンス研究会	

平成31年度 教科指導計画（シラバス）

授業科目名	あん摩マッサージ指圧応用Ⅱ				
担当者名	今井 進 土志田 武				
配当学年	専門2年	単位数	2	年間授業時間	60時間以上
授業目標	<p>施術者として必要な応用的施術に関する知識と技能について学習し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を養う。また、臨床実習前に施術実技試験等を行い、技術等に関する評価を行う。</p>				
	授業内容	配当時間	実施時間		
1	臨床入門 ア リスク管理 イ 衛生管理 ウ 患者への対応 エ 診察の進め方 オ 適否の判定	5			
2	日常遭遇しやすい主な症候・疾患に対する運動療法 ア 腰痛体操 イ 五十肩体操 ウ 肩こり体操 エ 膝痛に対する大腿四頭筋訓練 オ その他の治療体操	10			
3	施術に応用する物理療法 ア 温熱療法 イ 電気療法 ウ 牽引療法 エ その他	15			
4	その他の関連する手技療法	15			
5	介護予防・機能訓練指導に必要な知識と技術 ア 運動機能評価 イ 包括的高齢者運動トレーニング ウ 介護に必要な基礎的事項	10			
6	臨床実習前試験等	5			
	時間数	60			
試験及び成績評価	<p>総括的評価は各学期末のみ実施し、中間期は形成的評価を実施する。学年末成績は、各期の評価の相加平均とする。成績は、小数点第1位で切り捨てた整数とする。</p>				
教科書 参考図書					

授業科目名	はりきゅう応用実習Ⅱ (きゅう)		担当者名	森定 真・小田 剛	
配当学年	専門 2 年	単位数	2	年間授業時間	60 時間以上
授業目標	施術者として必要な応用的施術に関する知識と技能について教授し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得させる。				
授 業 内 容	<p>授業内容（予定）・時間数</p> <p>1. 施術への導入（オリエンテーションを含む） 5</p> <p>（1）施術室の管理</p> <p>（2）施術用具の基礎知識とその取り扱い</p> <p>（3）衛生管理（手指の消毒を含む）</p> <p>（4）リスク管理（感染予防対策を含む）</p> <p>2. 施灸の基礎 2</p> <p>（1）艾の鑑別</p> <p>（2）線香の取扱いと艾しゅへの点火</p> <p>3. 基本的施灸法及び特殊灸法 5</p> <p>（1）知熱・透熱灸法</p> <p>（2）隔物灸法</p> <p>（3）温灸器具を用いた灸法</p> <p>4. 身体各部、主な経穴への施灸 1 0</p> <p>5. 主要な疾患に対する診察（運動器疾患を中心に） 7</p> <p>6. 主要な疾患に対する施術 2 0</p> <p>7. 臨床入門 2</p> <p>（1）患者への対応</p> <p>（2）診察の進め方</p> <p>（3）適否の判定</p> <p>8. 見学実習（施術所、デイサービス、病院） 2</p> <p>9. 期末試験（臨床実習前試験等） 5</p> <p>1 0. 評価のフィードバック 2</p>				

試験及び 成績評価	前期・後期とも、期末試験（実技試験）で評価する。なお、各学期中に行う中間期評価は学期評価への参入は行わず、授業への出席状況、実習中の態度、技能の習熟度を考慮して評価する。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点（小数点以下は切り捨て）とする。
教科書等	なし

授業科目名	臨床医学各論		担当者名	上野博之	
配当学年	専門3年	単位数	3	年間授業時間	90時間以上
授業目標	<p>施術者として必要な現代医学の立場からみた系統別疾患の診断及び治療に関する基礎的知識について教授し、これを施術に応用する能力と態度を修得させる。</p>				
授 業 内 容	指導計画		<予定時間>		
	(1) 内科系疾患				
	ア	消化器疾患	5		
	イ	呼吸器疾患	4		
	ウ	循環器疾患	4		
	エ	血液疾患	4		
	オ	泌尿器疾患	4		
	カ	生殖器疾患	3		
	キ	内分泌疾患	5		
	ク	代謝疾患	4		
ケ	アレルギー疾患	4			
コ	膠原病	5			
サ	感染症	6			
(2) その他各科の疾患					
ア	一般外科	3			
イ	小児科疾患	4			
ウ	婦人科疾患	5			
エ	眼科疾患	3			
オ	皮膚科疾患	4			
カ	耳鼻科疾患	4			
キ	精神科疾患	5			
ク	心療内科疾患	4			
その他		10			
		合計	90		
指導上の留意事項					
(1) 各疾患の概念、病態生理、原因、症状、検査、治療、予後については、それぞれ重要度を勘案して指導する。					
(2) 臨床で遭遇しやすい疾患に重点を置いて指導する。					
(3) 他の科目との関連に留意する。					
試験及び成績評価	<p>前期(中間・期末)、後期(中間・期末)の年4回の総括的評価を実施する。 また、学年末成績は、各期の評価の相加平均とする。</p>				
教科書等	<p>盲学校理療強化用図書編纂委員会 編 『生活と疾病3 (臨床医学各論) 第3版』</p>				

教科科目名	リハビリテーション医学		
担当者	今井 進 木村 秀伯		
学 年	専門課程3年		
配当時間数	年間60時間：週2時間×30週	単位数	2単位
使用教科書	生活と疾病IA リハビリテーション医学（概論編） 生活と疾病IB リハビリテーション医学（基礎運動学編）		
使用参考書	東洋療法学校協会編教科書 リハビリテーション医学 第4版,		
指導目標	施術者として必要なリハビリテーション医学の基礎的知識について学習し、これを施術に応用する能力と態度を養う。		
	指導項目（大項目）	配時	実時数
	リハビリテーションの総説		
	(1) リハビリテーションの概要	1	
	(2) 医学的リハビリテーションの概要	1	
	(3) 障害の評価	5	
	(4) 医学的リハビリテーションの実際	5	
	疾患別リハビリテーション		
	(5) 脳血管障害のリハビリテーション	5	
	(6) 脳性麻痺のリハビリテーション	4	
	(7) 脊髄損傷のリハビリテーション	6	
	(8) 主な整形外科疾患のリハビリテーション	6	
	(9) 関節リウマチのリハビリテーション	4	
	(10) 切断のリハビリテーション	3	
	(11) 呼吸器疾患のリハビリテーション	3	
	(12) 心疾患のリハビリテーション	3	
	運動の仕組み		
	(13) 運動学の基礎	2	
	(14) 人体の構造と機能	3	
	(15) 姿勢と運動のコントロール	3	
	(16) 身体各部の運動	3	
	(17) 正常歩行と異常歩行	3	
	合計時間数	60	
○試験及び成績評価 前期期末、後期期末2回の総括的評価の結果により、その素点の平均点をもって年間評価とする。 なお、前期中間評価期間と後期中間評価期間には、それぞれの到達度を確認するため、形成的評価を実施する。			

授業科目名	医療概論		担当者名	原口 泰行	
配当学年	専門3年	単位数	1	年間授業時間	30時間以上
授業目標	<p>施術者として必要な医療制度及び医療従事者の倫理の基礎的知識について学習し、これを施術に応用する能力と態度を修得する。</p>				
指導項目（大項目）				配時	実時数
<p>1 現代の医学と医療</p> <p>（1）医療と社会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 疾病構造の変化</li> </ul> <p>（2）医療経済</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国民医療費の動向</li> <li>・ 高齢社会と介護問題</li> </ul> <p>（3）医療従事者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療従事者とチーム医療</li> </ul> <p>（4）医療・福祉施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護施設</li> </ul>				10	
<p>2 社会保障制度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療保険の仕組み</li> <li>・ 公費負担医療</li> <li>・ 介護サービス行政</li> </ul>				10	
<p>3 医療倫理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療の倫理</li> <li>・ 医療倫理教育</li> <li>・ 施術者としての倫理</li> </ul>				10	
合計				30	
試験及び成績評価	<p>前期期末、後期期末)の2回の試験の結果により、その素点の平均点をもって年間評価とする。中間期には形成的評価を実施する。</p>				
教科書	<p>医療と社会 改訂第5版 田中千章編著 岡山ライトハウス</p>				
参考書	<p>医療概論 中川米造著 東洋療法学校協会編</p>				

授業科目名	関係法規	担当者名	原口泰行・山田忠
配当学年	専門3年	単位数	1
			年間授業時間
			30時間
授業目標	<p>あん摩マッサージ指圧師、はり師、及びきゅう師として必要な業務          に関係する法令について教授し、施術者として法に則した規律あ          る業務を行う能力と態度を修得させる。</p>		
授業内容	<p>(1) 按摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師に関する法律 (20時間)</p> <p>ア. 免許</p> <p>イ. 試験</p> <p>ウ. 業務</p> <p>エ. 罰則</p> <p>(2) 関係法規 (10時間)</p> <p>ア. 医療関係法規</p> <p>イ. 薬事関係法規</p> <p>ウ. 衛生関係法規</p> <p>エ. 社会福祉関係法規</p> <p>オ. 社会保険関係法規</p>		
試験及び 成績評価	<p>総括的評価は、各学期末に実施し、中間期は形成的評価とする。</p> <p>学年末成績は、各期の総括的評価の相加平均とする。</p> <p>成績は、小数点第1位で切り捨てた整数とする。</p>		
教科書	「医療と社会」田中千章 編著 岡山ライトハウス		

## 平成31年度科目(教科)指導計画

授業科目名	あん摩マッサージ指圧理論		担当者名	伊達 徳昭	
配当学年	専門3年	単位数	2	年間授業時間	60時間
授業目標	あん摩マッサージ指圧で行う手技の意義・治効理論等を科学的視点で捉え、技術の向上を効率的に行える能力を身につけるとともに施術者としての心構えや態度を養う。				
				配時	実時数
第1章 あん摩マッサージ指圧の意義				2	
第2章 あん摩				10	
第1節 あん摩の意義と沿革					
第2節 あん摩の基本手技					
第3節 あん摩の効果					
第3章 マッサージ				10	
第1節 マッサージの意義と沿革					
第2節 マッサージの基本手技とその生理作用					
第3節 運動法とその生理作用					
第4節 結合織マッサージ					
第5節 リンパマッサージ					
第4章 指圧				5	
第1節 指圧の意義と沿革					
第5章 その他の関連する治療法				5	
第6章 あん摩マッサージ指圧の臨床応用				5	
1. 刺激量					
2. 感受性					
3. あん摩マッサージ指圧の適応					
4. あん摩マッサージ指圧の禁忌					
5. 適否の判断基準					
第7章 リスク管理				5	
第1節 リスク管理の基本					
第2節 あん摩マッサージ指圧の過誤					
第3節 あん摩マッサージ指圧における感染症対策					
第8章 あん摩マッサージ指圧の基礎理論				5	
第1節 刺激の伝達					
第2節 中枢内の神経伝導路					
第3節 反射					
第4節 治療効果と反射					
第5節 治療的作用と生体反応					
第9章 あん摩マッサージ指圧の治効理論				8	
第1節 身体組織、器官への影響					
第2節 自律神経および内分泌系への影響					
第3節 血液への影響					
第4節 免疫機構への影響					
第10章 関連学説				5	
第1節 ホメオスターシスの学説					
第2節 ストレス学説					
第3節 圧自律神経反射の学説					
第4節 その他					
ゲートコントロール説					
合計				60	
試験及び成績評価	総括的評価は各学期末に実施し、中間期は形成的評価とする。 学年末成績は、各期の評価の相加平均とする。成績は、小数点第1位で切り捨てた整数とする。				
教科書	基礎保健療Ⅱ(保健療理論) 盲学校療科利用図書編纂委員会編				
参考書	あん摩マッサージ指圧理論 東洋療法学校協会編				

授業科目名	はり・きゅう 理論	担当者名	土志田		
配当学年	専門3年	単位数	2	年間授業時間	60時間以上
授業目標	はり師、きゅう師として必要な鍼灸の基礎理論及び臨床効果について教授し、科学的視点から施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得させる。				
授業内容	<p>授 業 内 容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鍼灸理論概要～ 2時間</li> <li>・ 鍼灸施術の臨床応用～ 7時間</li> <li>・ 鍼灸の作用機序～ 13時間</li> <li>・ 関連学説と鍼灸施術～ 11時間</li> <li>・ 鍼灸の各組織・器官に及ぼす影響～ 11時間</li> <li>・ 鍼灸施術の特殊治効理論～ 11時間</li> <li>・ 鍼灸治療の分野と目的～ 5時間</li> </ul>				
試験及び成績評価	<p>前期(期末)、後期(期末)に試験を実施し、さらに、レポートなどの課題により、学習習慣などを考慮し、総括的評価とする。</p> <p>前期・後期の総括的評価の相加平均を持って学年成績とする。</p> <p>学年成績が60点以上をもって単位の認定とする。</p> <p>また、前期(中間)、後期(中間)の2回、形成的評価を実施する。</p>				
教科書等	理療理論、理療理論(付属版)				

授業科目名	東洋医学臨床論		担当者名	森定 真	
配当学年	専門3年	単位数	4	年間授業時間	120時間以上
授業目標	<p>施術者として必要な西洋医学と東洋医学を総合した施術法について教授し、施術が疾患に対し適応か否かの判断と適切かつ効果的に施術を行う能力及び態度を修得させる。</p>				
授業内容	<p>授業内容（予定） ・ 時間数</p> <p>1. オリエンテーション 1</p> <p>2. 治療論（総論、治療原則） 10</p> <p>3. 症候別治療（肩こり、頸肩腕痛、肩関節痛、上肢痛、腰下肢痛、膝痛、運動麻痺、頭痛、顔面痛、顔面麻痺、歯痛、眼精疲労、鼻閉、脱毛症、めまい、耳鳴り、咳嗽、喘息、胸痛、腹痛、悪心、便秘異常、月経異常、排尿障害、インポテンツ、高血圧症、低血圧症、食欲不振、肥満、発熱、のぼせと冷え、不眠、疲労と倦怠、発疹） 80</p> <p>4. スポーツ医学と理療施術 10</p> <p>5. 高齢者に対する理療施術 5</p> <p>6. 国試対策（演習問題の実施、模擬試験問題の解説を含む） 10</p> <p>7. 中間試験 2</p> <p>8. 期末試験 2</p>				
試験及び成績評価	<p>前期・後期とも、中間期と期末に試験を行い、その平均点（小数点以下は切り捨て）を当該学期の評価点とする。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点（小数点以下は切り捨て）とする。</p>				
教科書等	臨床理療学（理療臨床論）				

授業科目名	理療経営		担当者名	小田 剛	
配当学年	専門3年	単位数	2	年間授業時間	60時間以上
授業目標	<p>施術者として必要な地域社会における理療の役割、医療・福祉のあり方、及び理療の経営に必要な知識について教授し、施術者並びに経営者としての能力と態度を修得させる。</p>				
授業内容	<p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 地域社会と理療</li> <li>(2) 少子高齢社会の現状と課題</li> <li>(3) 社会保障制度の体系</li> <li>(4) 理療業務と社会保険制度</li> <li>(5) 理療経営の基礎</li> <li>(6) 理療経営の展開</li> <li>(7) 機能訓練型デイサービスの起業</li> <li>(8) 理療と就労</li> </ol>				
試験及び成績評価	<p>前期期末、後期期末の2回の定期試験の結果により、その素点の平均点をもって年間評価とする。なお、成績に関与しないが前期中間・後期中間期には用者全体及び個々の学習状況を把握する目的で形成的評価を行う。</p>				
教科書等	<p>地域理療と理療経営（社会鍼灸あん摩学序説）第3版 日本理療科教員連盟教科書委員会編</p>				

授業科目名	あま指臨床実習 I		担当者名	藤井 徹 ・ 今井 進	
配当学年	専門3年	単位数	2	年間授業時間	90 時間以上
授業目標	あま指応用実習で学習した内容（施術者として必要な施術に関する知識と技能）を踏まえ、さらに、その学習を深めることを通じ、より適切かつ効果的に施術を行う能力と態度を修得する。				
授業内容	<p>授業内容 下記の事項を適時行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 施術者としての基本 <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) 施術者としての心得</li> <li>(イ) 衛生管理</li> <li>(ウ) リスク管理</li> <li>(エ) 患者への対応</li> <li>(オ) 診察の進め方</li> <li>(カ) 適否の判定</li> <li>(キ) 日常遭遇しやすい主な症候・疾患に対する診察と施術</li> <li>(ク) 施術に併用できる運動療法および物理療法</li> </ul> </li> <li>2 設備や備品の管理と清潔の保持</li> <li>3 手指の消毒</li> <li>4 施術の実践 <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) 診察、評価および施術適否の判定</li> <li>(イ) あん摩マッサージ指圧施術の実施</li> <li>(ウ) 運動・物理療法の併用</li> <li>(エ) 施術過誤の防止と対処</li> </ul> </li> <li>5 実習のまとめ <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) カンファレンスの実施</li> </ul> </li> <li>6 臨床家による講座</li> </ol>				
試験及び成績評価	<p>総括的評価は前期期末、後期期末の各期に、実習態度、施術に関する知識や技能、施術録の作成等を考慮して総合的に評価する。</p> <p>なお、前期中間・後期中間に形成的評価を行う。</p>				
教科書等	なし				

授業科目名	はり灸臨床 I		担当者名	小田 剛 ・ 森定 真																																			
配当学年	専門 3 年	単位数	2	年間授業時間	90 時間以上																																		
授業 目標	<p>施術者として必要な施術に関する知識と技能について学習し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得する。</p>																																						
授 業 内 容	<p>授業内容・予定時間数</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">オリエンテーション</td> <td style="text-align: right;">4</td> </tr> <tr> <td>施術者としての基本</td> <td></td> </tr> <tr> <td>    (ア) 施術者としての心得</td> <td style="text-align: right;">1</td> </tr> <tr> <td>    (イ) 患者への対応</td> <td style="text-align: right;">適宜</td> </tr> <tr> <td>設備や備品の管理と清潔の保持</td> <td style="text-align: right;">適宜</td> </tr> <tr> <td>消毒</td> <td style="text-align: right;">1</td> </tr> <tr> <td>    (ア) 施術器具の消毒</td> <td></td> </tr> <tr> <td>    (イ) 手指及び施術部位の消毒</td> <td></td> </tr> <tr> <td>施術の実践</td> <td style="text-align: right;">適宜</td> </tr> <tr> <td>    (ア) 診察、評価及び施術適否の判定</td> <td></td> </tr> <tr> <td>    (イ) 鍼灸施術の実施</td> <td></td> </tr> <tr> <td>    (ウ) 運動・物理療法の併用</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習のまとめ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>    (ア) ケースレポートの作成</td> <td style="text-align: right;">適宜</td> </tr> <tr> <td>    (イ) カンファレンスの実施</td> <td style="text-align: right;">3</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: right;">計</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: right;">90 時間</td> </tr> </table>					オリエンテーション	4	施術者としての基本		(ア) 施術者としての心得	1	(イ) 患者への対応	適宜	設備や備品の管理と清潔の保持	適宜	消毒	1	(ア) 施術器具の消毒		(イ) 手指及び施術部位の消毒		施術の実践	適宜	(ア) 診察、評価及び施術適否の判定		(イ) 鍼灸施術の実施		(ウ) 運動・物理療法の併用		実習のまとめ		(ア) ケースレポートの作成	適宜	(イ) カンファレンスの実施	3		計		90 時間
オリエンテーション	4																																						
施術者としての基本																																							
(ア) 施術者としての心得	1																																						
(イ) 患者への対応	適宜																																						
設備や備品の管理と清潔の保持	適宜																																						
消毒	1																																						
(ア) 施術器具の消毒																																							
(イ) 手指及び施術部位の消毒																																							
施術の実践	適宜																																						
(ア) 診察、評価及び施術適否の判定																																							
(イ) 鍼灸施術の実施																																							
(ウ) 運動・物理療法の併用																																							
実習のまとめ																																							
(ア) ケースレポートの作成	適宜																																						
(イ) カンファレンスの実施	3																																						
	計																																						
	90 時間																																						
試験及び 成績評価	<p>態度、技術、知識、考察（カルテの記入方）を加味し、前期(期末)、後期(期末)の2回の総括的評価を行う。 又、前期、期末に1度ずつ形成的評価も行う。</p>																																						
教科書等	なし																																						

授業科目名	鍼灸臨床Ⅱ		担当者名	上野 水沼	
配当学年	専門3年	単位数	2	年間授業時間	90時間以上
授業目標	<p>施術者として必要な施術に関する知識と技能について学習し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得する。</p>				
授業内容	<p>オリエンテーション            施術者としての基本                (ア) 施術者としての心得                (イ) 患者への対応            設備や備品の管理と清潔の保持            消毒                (ア) 施術器具の消毒                (イ) 手指及び施術部位の消毒            施術の実践                (ア) 診察、評価及び施術適否の判定                (イ) 鍼灸施術の実施                (ウ) 運動・物理療法の併用            実習のまとめ                (ア) ケースレポートの作成                (イ) カンファレンスの実施</p>				
試験及び成績評価	<p>接遇 技術 知識 考察 (カルテの記入方) を加味し年度末評価とする。</p>				
教科書	なし				

平成 31 年度シラバス					
授業科目名	あん摩臨床Ⅱ		担当者名	山田忠 伊達徳昭	
配当学年	専門 3 年	単位数	2	年間授業時間	90 時間以上
授業目標	<p>施術者として必要な施術に関する知識と技能について学習し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得する。</p>				
授業内容	<p>1. 施術者としての基本            (ア) 施術者としての心得            (イ) 衛生管理            (ウ) リスク管理            (エ) 患者への対応            (オ) 診察の進め方            (カ) 適否判定            (キ) 日常遭遇しやすい主な症候・疾患に対する診察と施術            (ク) 施術に併用できる運動療法および物理療法</p> <p>2. 設備や備品の管理と清潔の保持</p> <p>3. 消毒            (ア) 施術器具の消毒            (イ) 手指及び施術部位の消毒</p> <p>4. 施術の実践            (ア) 診察、評価及び施術適否の判定            (イ) あん摩マッサージ指圧施術の実施            (ウ) 運動・物理療法の併用            (エ) 施術過誤の防止と対処            (オ) 正しいカルテの記入</p> <p>5. 実習のまとめ            (ア) カンファレンスの実施</p> <p>6. 臨床家による講座</p>				
試験及び成績評価	<p>試験及び成績評価            前期期末、後期期末の各期に、実習態度、施術に関する知識、施術に関する技能、施術の記録などを考慮して総合的に評価する。前期中間・後期中間に形成的評価を行う。</p>				
教科書	あん摩マッサージ指圧実技（基礎編）				